

## 環境ハイライト [第5次環境取り組みプラン]

### 2015年までの第5次環境取り組みプランを策定



環境配慮メーカーとして  
圧倒的な存在感を示し、  
すべてのステークホルダーから  
信頼されるメーカーを目指す

日野自動車は、2015年度までの環境への取り組み実行計画として  
「2015年環境取り組みプラン(第5次環境取り組みプラン)」をスタートさせました。

#### これまでの実績

日野自動車は、1993年に第1次の「環境取り組みプラン」を策定し、第4次プランまで取り組みを進化させてきました。

## ■「日野自動車環境取り組みプラン」変遷

	年 度	特 徴
第1次	1993～1995	生産環境面でCO <sub>2</sub> 削減、物流合理化など4項目、製品環境面で車両・部品削減など2項目を設定し、環境取り組みプランとしての枠組みを策定。
第2次	1996～2000	第一次プランを進化させ、国内外の生産拠点に言及。取り組み項目を、生産環境面では6項目、製品環境面で7項目に拡大。
第3次	2001～2005	取り組み項目の見直しと拡大。ISO14001取得推進、グリーン調達の実行、連結環境マネジメントの実施、販売会社環境取り組みガイドラインを展開。
第4次	2006～2010	グローバルCO <sub>2</sub> 目標の設定、仕入れ先環境負荷物質削減への対応、グローバル連結、非生産拠点への拡大展開、LCAシステムの導入。

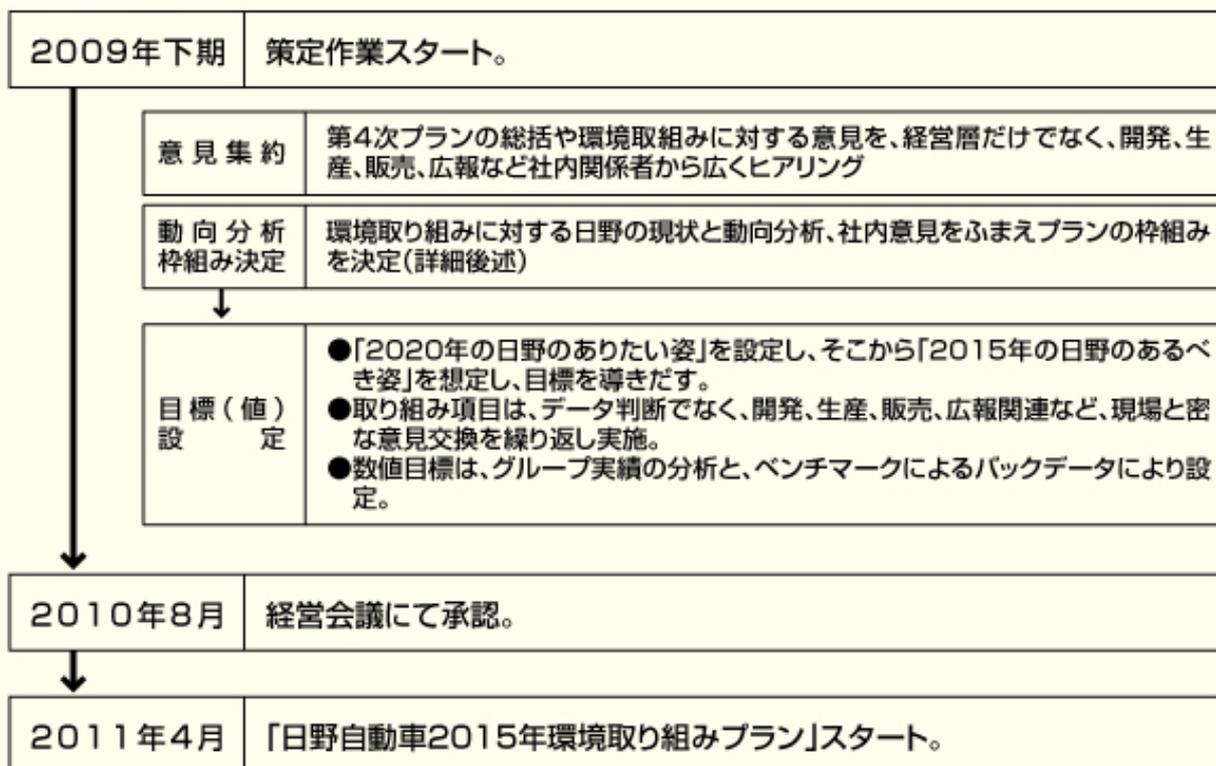
## 策定にあたっての基本的な考え方

環境取り組みプランは、社の基本理念・CSR指針に沿って、環境への取り組みを具体的に定めるものです。日野自動車は「世界中のすべてのステークホルダーから信頼されるメーカー」となることを目指しており、今回の「2015年環境取り組みプラン」は、その一環として策定されました。主な内容は、「環境により良い製品の提供をはじめ、すべての事業における環境 配慮・調和の実現」となっており、このプランの実行・目標達成によって、環境配慮メーカーとしての相応しい実績と強い存在感を示すことで、より多くの皆様からの「信頼」を得ることを目指しています。

## 第5次プランの策定プロセス

2009年度下期より策定作業をスタート。2010年12月に「日野自動車2015年環境取り組みプラン」としてリリースされ、2011年4月よりスタートしました。

## ■策定プロセス



## 動向分析、枠組み決定

依然として気候変動が世界の注目を集めていることから、(1) CO<sub>2</sub>削減活動を引続き重点的に進めることを決定。また新興国経済発展に伴い顕在化している(2) 資源枯渇問題、さらに生物多様性の保護等を含めて(3) 自然との共生について着目し、この(1)～(3)をプランの枠組みとして設定。また全体活動を推進する土台として、(4) 環境経営・環境マネジメントを設定しました。

## 第5次プランの枠組み

### 背景①：気候変動

気候変動が世界的に注目を集め、国際的取り組みが進められている。

1

低炭素社会の構築

2

循環型社会の構築

### 背景②：資源枯渇

新興国需要増による資源枯渇問題。資源の有効利用・代替え材料研究が進められている。

3

環境保全と自然共生社会の構築

### 背景③：自然との共生

2010年10月に名古屋で「COP10(第10回生物多様性条約締結国会議)」が開催されるなど、自然との共生を目指す動きが活発化している。

4

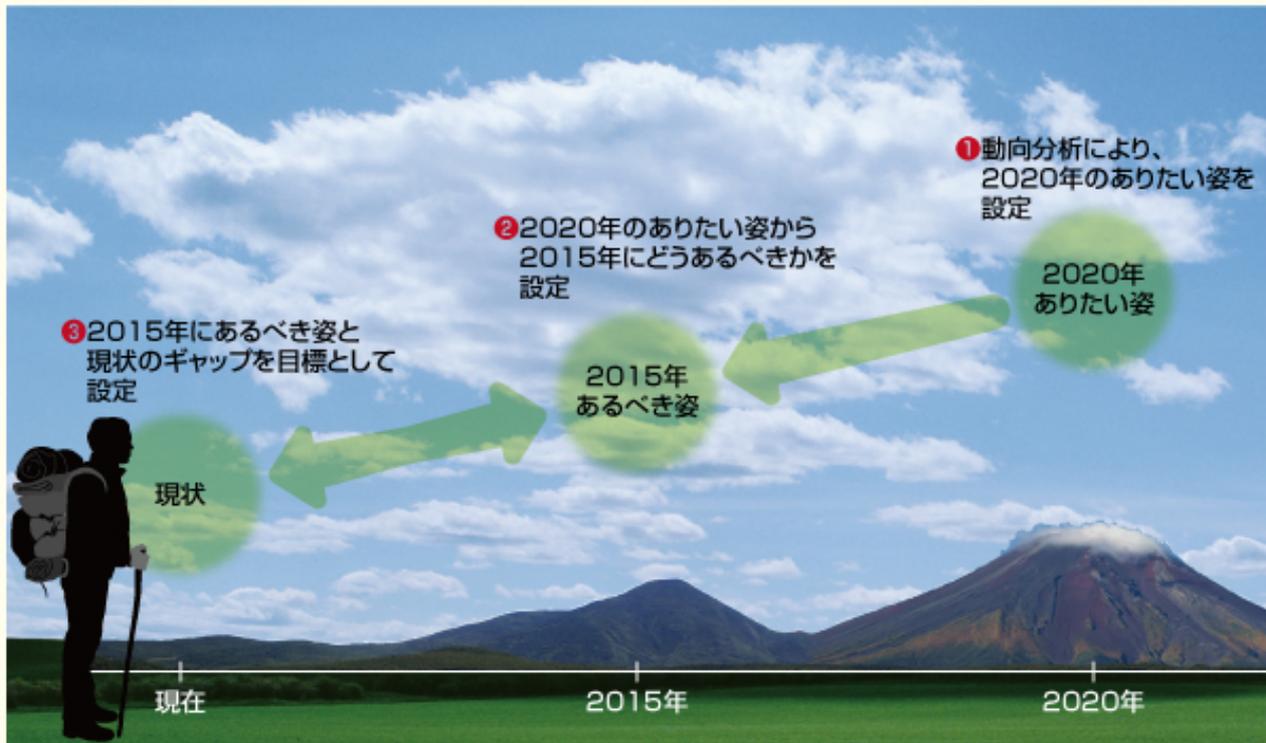
環境経営・環境マネジメント

3本柱

土台

## 目標設定

バックカスティングの手法を導入し、日本における温室効果ガス排出量を90年度比で25%削減する2020年を想定し、日野自動車はその時どうなっていたいのか、そのために2015年にはどうあるべきかを導き出し、大きな目標として掲げました。



この大きな目標達成のために各領域で何ができるか、計画としてどのようなものに落とし込めるか、さまざまなセクションにおいて意見交換を繰り返し、社内の合意形成をおこないつつ目標設定を進めました。

具体的な数値目標の設定についても、例えば、基準年を直近の08年に変更したり、一般的な「廃棄物削減活動」をさらに厳格化（社内再利用の促進による社外排出量の削減、焼却処理後の残渣削減等）する等、細部に渡って日野自動車らしさを反映しています。

さらにこの数値目標に関しては、生産状況に大きく左右されるため、『短期間での確実な進捗管理・目標達成を積み上げて、中長期の大目標を達成する』という観点で、2年で区切り、12年で達成度を測ることとしました。



## 信頼されるメーカーを目指して

日野自動車は世界から信頼される商用車メーカーを目指して、このプランの遂行を通じて、環境により良い商品の提供や事業全般における環境との調和を実現していきます。

## 01 全体のとりまとめ役



### 関連部署へのヒアリングと意見交換に力を入れ 関係者を巻き込むことにこだわりました

環境部 環境企画室 グローバル環境グループ  
柏 賢介

プラン全体のとりまとめを担当しました。今回の策定プロセスの中では、従来以上に社内のさまざまな関連部署へのヒアリングと意見交換に力を入れました。多くの関係者を巻き込んだことで、多くの方々の想いを盛り込むことができたと思います。その結果日野らしいプランができあがったことに加え、プラン作成段階で目標と取り組み内容について社内の合意形成が得られ、11年度からのプラン実行が円滑に立ち上がったと考えています。

もちろん、トップダウンで取り組むべき面もありますが、"みんなで作り上げたプラン"という点は今回の特徴だと思っています。

次期プランに携わるなら、事前ヒアリングの対象を取引先や国内外のグループ会社に拡大し、より多くの方々の想いをプランという形にしたいと思っています。

## 02 数値目標の設定役



### 日野の現在のポジションを明らかにするための 調査・分析に注力しました

環境部 生産環境室 技術グループ  
桂川 潤

CO<sub>2</sub>削減目標値をはじめ具体的な数値目標の策定を担当しました。目標を設定するにあたって、種々の環境に関する情報を入手し、世界で、日本で、日野が今どのポジションにあるのかを調査・分析したうえで、管理項目と数値目標を設定しました。

今後のプラン実行段階では、日野の強みを生かして『着実』に目標達成に向かって取り組み、これまでより積極的に社会へ数値目標の達成状況等の情報を発信し、地球環境に配慮する商用車メーカーとしてお客様の信頼を維持・向上させたいと考えています。また今回取り入れた目標設定手法にさらなる改善を加え、環境経営指標の設定に活用することで、日野の環境への取り組みを進化させていきたいと思っています。